



阪神カウンセリング・ラボ ニュースレター



2024 2月号

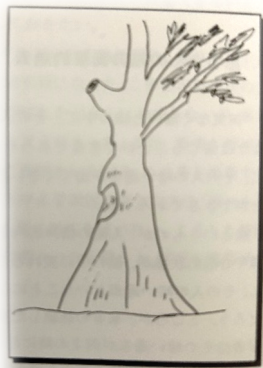


当相談室で実施してきた心理療法（3）樹木画(続き)

カール・コッホの「バウムテスト」に書かれたヴィトゲンシュタイン指数に興味をひかれたのは、ある方が描いた樹木画でした。ヴィトゲンシュタイン指数とは、木の高さを生活年齢で割った値をもとに、幹に描かれたコブとか節とか穴といった不自然な表現から、何らかの心の傷を受けた年齢が分かるという理論です。例えば、絵を描いた人が10歳で、描いた木の高さが10cmであった場合、1cmが一年となります。この子が、根元から6cmのところは何らかの傷とみられる表現をしたら、6歳の時に心の傷を受けた体験があったというものです。



この理論に基づいて、Aさんが描いた絵から、心の傷があると感じた私は、「11歳前後、何かつらいことはありませんでしたか？」と尋ねました。するとAさんは、動揺して、「なぜそんなことが分かるのか」と質問されました。「何があったのですか？」と聞くと、Aさんは、



Aさんが描いた絵

父親が暴漢に襲われて刃物で右側の腹部を刺されて亡くなった、という話をされました。さらに、この絵の上部に枝の切り口があることから、概算して「25歳頃、何かありましたか？」と質問しました。Aさんは、さらに驚いて、24歳から25歳の頃、会社を設立したがうまくいかず倒産し、さらに母親が病気で入院して不安を抱えて生活しており、精神的に不安定になって入院したことを話されました。この絵に描かれた木の傷が、ヴィトゲンシュタイン指数にほぼ正確に該当したのです。この体験から、バウムテストへの興味関心が非常に高まりました。

参考までに伝えと、大学教授になった時に、卒論にこの研究をする学生が何人かいましたが、サンプル数が少なく科学的に証明するに至らず、また、その絵の多くが、ヴィトゲンシュタイン指数に当てはまることは少ない結果でした。

阪神カウンセリング・ラボ 梅田相談室

<https://www.hanshin-cl.com/>

〒530-0014 大阪市北区鶴野町4-11 朝日プラザ梅田9階910

Tel/Fax 06 - 6147 - 2533

E-mail hanshin-cl@star.ocn.ne.jp

